

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	児童発達支援センターいっぽ			
○保護者評価実施期間	2025年 1月 6日 ～ 2025年 2月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	61	(回答者数)	39
○従業者評価実施期間	2025年 1月 6日 ～ 2025年 1月 31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者の困り感に対して迅速に面談の機会を設けている。また、いつもと保護者の表情など様子が違う場合は帰りの送迎時に職員から声を掛け気に掛けるようにしている。	保護者によっては、電話より面談した方が思いや考えを把握しやすいため、保護者に応じて面談や電話、メールで対応している。	保護者によっては、その都度面談ができることを知らなかった方もいるため、機関紙で気軽に面談ができる旨を周知していく。
2	活動内容が充実している。	過去の活動内容のなかで好評だったものを再び取り入れている。また、今まで取り組んだことない活動も少しずつ取り入れ、利用児がか内容に飽きないよう変化させている。	職員間のみで活動内容を決めるのではなく、面談時に保護者から活動内容の要望を聴取したり、利用児が活動内容を決められる場面を設定したりしていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児数に比べ活動する部屋が狭い。	利用児の年齢が上がるに伴い身体面も成長し活動部屋が狭くなっている。また曜日によっては活発に動きたい利用児もいるため、気兼ねなく身体を動かせる機会や場所を提供していきたい。	外出活動や遊戯室（ホール）を利用する日を増やしていく。
2	保護者懇談会や保護者向け勉強会など、保護者同士で会う機会が少ない。	保護者の就労などの理由で午前中に参加できる保護者は限られてくるが、保護者同士で顔を合わせられる機会を検討していく。	次年度は、保護者同士が顔を合わせ話し合えるような保護者が参加する行事を検討していく。
3	災害緊急時や防犯時のマニュアルがあることが周知されていない。	マニュアルはあるため、機関紙などで保護者に伝えていく必要がある。	防災訓練などを活動で行った際は、マニュアルに準じて行っている旨を機関紙や帰りの送迎時に周知していく。